かけはし

会報 68 号 発行:特定非営利活動法人全国LD親の会 発行人:内藤 孝子
事務局:〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-5 バロール代々木 415
TEL/FAX:03-6276-8985 E-MAIL:jimukyoku@jpald.net URL:http://www.jpald.net/

特定非営利活動法人 JPALD 全国LD親の会

全国 LD 親の会設立 20 周年記念事業

NPO法人全国LD親の会
副理事長 丹藤 登紀子

1990 年 2 月 11 日に 9 団体が発起人となり「全国学習障害児・者親の会」が設立しました。そして、今年度、20 周年を「NPO法人全国LD親の会」として迎えることができました。人間で言えば成人になった訳です。

そこで、記念として、社会福祉事業研究開発基金から助成を得て、「発達障害者支援におけるNPO・親の会等の役割」についての事業に取り組みました。

1. 全国LD親の会設立 20 周年記念フォーラム

「発達障害者支援におけるNPO・親の会等の役割
～全国LD親の会のこれまでとこれから～
日時:2010年2月28日（日） 12:50～15:45
会場:横浜市社会福祉センター 4F ホール
開催趣旨:発達障害支援の進展や当事者団体として親の会が果たしてきた役割を振り返り、今後の発達障者支援の推進において、親の会やNPO等がそれぞれ果たすべき役割、協働の在り方などについて提言する事を目的とする。
参加者:111 名

2.「発達障害者支援におけるNPO等の役割に関する報告書」発行

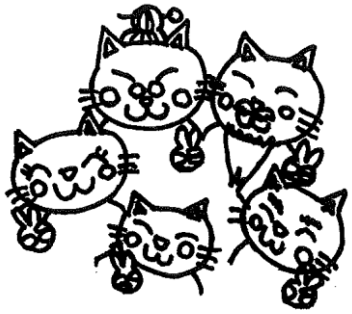
本報告書は、全国LD親の会が当事者団体として特別支援教育の実現や発達障害者支援のために、果たしてきた役割をまとめたものです。20 年を振り返り、揺籃期の諸先輩の情熱とエネルギーに対し敬服すると共に、上野一彦先生を初めとして共に歩んで下さった先生方や関係機関なしには、現在の全国LD親の会はありえなかったと改めて感じました。

資料編には「会員の声」も載せています。何に困っているか、どんなサポートを望んでいるか・・・。生の声は社会に大きく響く貴重な資料です。また、会員の子どもの構成の推移なども掲載していますが、こういった調査・研究には各会の皆様のご協力があってこそで、この 20 年は会員一人一人の方と積み上げていったものがあると実感しています。同じ目的に向かって歩んでいる絆が親の会活動の大きな原動力であることは間違いありません。

「愛」というのはとても強いものであり、発達障害のある人への溢れる「愛」の結晶によって、世の中はより良い方向に進化を遂げます。その愛をもって認め合う信頼関係により、さらに太く強固な絆を築いていく必要があると思います。LD等の発達障害のある人が「自分らしく微笑んで毎日を生きられる」地域差のない社会を目指し、会員の皆様とともに、親の会の深化・拡大・発展に頑張っていきたいと思っています。

全国 LD 親の会設立 20 周年記念冊子ができました

「発達障害者支援のおけるNPO等の役割に関する報告書―全国LD親の会 20 年のあゆみー」
発行:2010 年 10 月
内容: ①発達障害支援の取り組みと全国LD親の会のあゆみ
②全国LD親の会設立 20 周年記念フォーラム （2010 年 2 月 28 日） 録
③発達障害者支援をめぐる動きと全国LD親の会の動き
資料編（組織、理解啓発活動、要請活動・参画、調査研究活動、加盟団体一覧）
体裁: A4 版 82 ページ
発行部数:1,000 部
配布先: 各親の会、各都道府県教育委員会、政令都市教育委員会、
教育センター、発達障害者支援センター、各都道府県図書館など関係機関



＊若干在庫がありますので、ご希望の方は、全国LD親の会事務局 jmukyoku@jpald.net までお問い合わせください

全国LD親の会公開フォーラム in 札幌　報告

日　時 ： 2010 年 8 月 21 日（土） 9:50 ～15:40

会　場 ： 札幌市社会福祉総合センター大研修室

テーマ ： 発達障害のある人のライフステージを通じた支援に必要なこと

～最新情報を踏まえ、乳幼児期から就労期までの支援を考える～

講演　内藤 孝子　（NPO法人全国LD親の会）
「発達障害のある人の自立に向けて、今できること
～親の会の取組みと地域連携～」
講演　上野 一彦　（東京学芸大学名誉教授）
「発達障害のある人のライフステージを通した支援」
講演　日詰 正文　（厚生労働省発達障害対策専門官）
「発達障害支援行政の最新情報と課題」
シンポジウム
「発達障害のある人のライフステージを通じた支援に必要なこと　～札幌市での取組みを中心に～」
二宮 信一　（北海道教育大学釧路校）
吉森 みどり　（札幌市保健福祉局保健福祉部）
大澤 隆則　（就労移行支援事業所「あるば」）
長田 じゅん子
（北海道学習障害児・者親の会「クローバー」）
指定討論
日詰 正文　（厚生労働省発達障害対策専門官）
内藤 孝子　（NPO法人全国LD親の会）

全国LD親の会設立20周年を記念して、北の地札幌でフォーラムが開催されました。全国的に連日猛暑が続く中、開催前日に札幌駅に着かれた内藤さんの開口一番は「北海道は涼しい！」でした。「これでも北海道民は例年にない暑さに辟易しているのに、本州の方々にはオアシスと感じるのですね」と妙に納得しました。

フォーラム前半では、内藤理事長、上野一彦先生、日詰正文氏のご講演、後半は地元の登壇によるシンポジウムが行われました。

シンポジウムでは、「教育全般の立場から」北海道教育大学の二宮信一先生、「行政の立場から」札幌市保健福祉局の吉森みどり氏、「就労支援の立場から」就労移行支援事業所大澤隆則氏、「親の会」クローバー長田からそれぞれ話題提供が出され、その後討論が行われました。

当日会場の関係で開催時間が短い中、上野先生・日詰氏・内藤理事長からのホットな最新情報等、内容の濃いお話を聞くことが出来ました。

昼食時には、クローバーの青年達が育てたミニトマト・とうもろこし・枝豆を皆さんに食べていただきました。

前日の夜は、フォーラム参加の方々・北海道S.E.N.Sの会の方々・親の会との懇親会にて歓談、交流をしました。

また、フォーラム終了後、先生方とこの日集合した函館わんぱくくらぶ・室蘭ダビンチ・小樽ぽてと・旭川ぷりずむ・クローバーとの懇談会を行いました。

以下、アンケートからです。

◆上野先生の「診断名は大切にするが、子どもが、何に困って、どのような状況にあり、何を必要と（支援）しているか、子どものニーズに沿うのが特別支援教育」という主旨の発言がありました。大事にしていくことが何なのか、あらためて考えさせられました。

◆最新の特別支援教育・厚労省の情報が得られてよかった。

◆厚労省の動きを知ることができて参考になりました。

◆内藤さんのお話はわかりやすかったです。経験をふまえた提言をこれからも行政に働きかけてくれるとうれしいです。私たち行政も出来ることをしたいと思います。

今回の開催が、大きな収穫を地方にもたらせてくださったことに感謝申し上げます。　（クローバー長田）

●次号では、全国LD親の会公開フォーラムin福岡　のご報告をします。

日時：2011年01月16日　10:00-17:00（開場　9:40）
会場：ふくふくプラザ1Fホール（福岡市）
報告　内藤 孝子　（NPO法人全国LD親の会）
講演　上野 一彦　（東京学芸大学名誉教授）
講演　日詰 正文（厚生労働省発達障害対策専門官）
シンポジウム
砂後 典之　（佐賀県教育庁教育政策課）
平島ユイ子　（福岡市立壱岐東小学校）
田中 清　（有限会社化成フロンティアサービス）
大曲千代子　（NPO法人全国LD親の会・北九州LD親の会「すばる」）
岩永竜一郎　（長崎大学）
指定討論
上野 一彦　（東京学芸大学名誉教授）
内藤 孝子　（NPO法人全国LD親の会）

教育から就業への移行実態調査報告書 Ⅲ
(全国LD親の会・会員調査)　発行予定

2009 年 11 月から 12 月にかけて、各親の会の 18 歳(高卒相当)以上の子どもを持つ会員(保護者)とその子ども(本人)を対象に「教育から就業への移行実態調査Ⅲ」を実施しました。

2005 年に施行された「発達障害者支援法」により、様々な分野で理解や支援が進み始めましたが、実態はどのように変化したのか、今回の調査では、2003 年、2006 年におこなった実態調査をベースに、上乗せした調査を実施させていただきました。有効回答者は、会員(保護者)527 人(回答率 48.8%)、子ども(本人)484 人(回答率 44.8%)でした。今回の調査で、はじめて会員(保護者)の回答者が 500 人を超えました。

現在、調査結果の集計が終了し、下記のような構成で、報告書としてまとめる作業にとりかかっています。項目によっては、3 時点(2003 年・2006 年・2009 年)での比較もおこなっています。

本報告書が発達障害のある人が、生き生きと暮らしていくためにさらにどのような支援が必要なのか、本人や家族が取り組むべきことは何か、教育から就業への移行期、成人期の具体的な支援のあり方の検討等の資料として、各方面で活用されることを願っています。　(内藤)

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

第Ⅰ部 保護者対象の調査

第1章　調査の概要

(1)目的
(2)実施要綱
(3)親の会別回答者数(2009 年)
(4)男女別人数と割合(2003 年・2006 年・2009 年)
(5)年齢別人数と割合(2003 年・2006 年・2009 年)
(6)現在の状況(2003 年・2006 年・2009 年)

第 2 章　支援制度の利用状況

(1)診断・判定の状況(2009 年)
(2)障害者手帳取得状況(2003 年・2006 年・2009 年)
(3)障害者基礎年金の受給状況
(2003 年・2006 年・2009 年)

第 3 章　後期中等教育・高等教育の状況

(1)中学卒業後の進路(2003 年・2006 年・2009 年)
(2)高等教育の状況(2003 年・2006 年・2009 年)

第 4 章　移行の状況(2009 年)

(1)18 歳(高卒相当)以降の移行の状況
①＜大学＞の場合の移行
②＜短大・高等専門学校＞の場合の移行
③＜専門学校・専攻科＞の場合の移行
④＜就業・一般＞の場合の移行
⑤＜就業・障害＞の場合の移行
⑥＜授産施設・作業所＞の場合の移行
⑦＜職業訓練＞の場合の移行
⑧＜在宅＞の場合の移行
(2) 現況からみた移行の状況
①＜就業・一般＞の場合の移行
②＜就業・障害＞の場合の移行
③＜授産施設・作業所＞の場合の移行
④＜在宅・その他＞の場合の移行

第 5 章　現在の状況(2003 年・2006 年・2009 年の比較)

(1)＜学校在学中＞の場合の状況
(2)＜就業・一般＞の場合の状況
(3)＜就業・障害＞の場合の状況
(4)＜パート＞の場合の状況
(5)＜授産施設・作業所＞の場合の状況
(6)＜職業訓練＞の場合の状況
(7)＜在宅・その他＞の場合の状況

第 6 章　生活の状況

(1)医療機関の利用(2009 年)
(2)薬の服用(2009 年)
(3)暮らしの状況(2003 年・2009 年)
(4)相談機関の利用(2003 年・2006 年)
(5)保護者の心配(2003 年・2009 年)

第 7 章　地域による比較(2009 年)

(北海道/千葉県/東京都/神奈川県/新潟県/愛知県/大阪府/兵庫県/福岡県)
(1)支援制度の利用状況
(2)後期中等教育・高等教育の状況
(3)現在の状況
(4)就業状況

第Ⅱ部 本人対象の調査

第1章　調査の概要

(1)目的
(2)実施要綱
(3)都道府県別回答者数(2009 年)
(4)男女別人数と割合(2003 年・2009 年)
(5)年齢別人数と割合(2003 年・2009 年)
(6)現在の状況(2003 年・2009 年)

第 2 章　高等教育における状況

(1)学業に関すること
(2)大学生活に関すること

第 3 章　就職準備の状況

(1)資格
(2)就職のため支援の利用状況

第 4 章　就業や自立に関する取り組みや意識

(1)職場での状況
(2)自立への意識

資料編

保護者用調査用紙 ・本人用調査用紙

発達障害を含む特別支援教育におけるNPO等活動体系化事業（文部科学省）

「特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業」

昨年度に引き続き、文部科学省から民間組織・支援技術を活用した特別支援教育研究事業（特別支援教育に関するNPO等の活動・連携の支援）の委託を受け、「特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業」を実施しています。本事業は、特別支援教育支援員の養成、保護者・学生等のボランティアの養成を行うことにより、発達障害等の障害のある児童・生徒への支援の充実、特別支援教育の推進、保護者のエンパワメント、障害のある幼児児童生徒に対する社会一体となった支援の充実に資することを目的としています。

事業の一環として、12 月に渋谷区教育委員会のご協力を得て、11 月にオープンしたばかりの渋谷区文化総合センター大和田（東京都渋谷区桜ヶ丘 23-2 JR渋谷から徒歩 5 分）で、特別支援教育支援員、学習支援員、介助員を目指す人を対象に、特別支援教育支援員養成講座を開催しました。

1. 講座の種類

①支援員コース
［講習：3日間(20時間)］
特別支援教育支援員として、学校長や担任教諭の指示の下で、発達障害等の障害のある幼児児童生徒に対する介助、保護者等に対する相談支援が行える者の養成。

② 学習支援員コース
［講習：4 日間(26 時間)］
特別支援教育支援員として、学校長や担任教諭の指示の下で、発達障害等の障害のある幼児児童生徒に対する介助、学習支援、保護者に対する相談支援が行える者の養成。

2. プログラム

第1日　2010年12月11日（土） 9:30～17:30
（支援員コース・学習支援員コース共通）

	科目
	オリエンテーション
1	特別支援教育概論 上野　一彦（一般社団法人日本LD学会）
2	子どもの特性と対応方法(A) 社会性・コミュニケーション・行動面の困難とサポート方法 増田　博信（ときがわ町立都幾川中学校）
3	学校・学級での支援の仕方、担任との連携の仕方 漆沢　恭子（植草学園短期大学）
4	主な障害の特性の理解(1)主な障害の特性の理解 篁　倫子（お茶の水大学大学院）
5	主な障害の特性の理解(2)発達障害の特性と理解 篁　倫子（お茶の水大学大学院）

第2日　2010年12月12日（日） 9:10～16:50
（支援員コース・学習支援員コース共通）

6	特別支援教育支援員としての業務や心構え 吉田　昌義（帝京大学）
7	子どもの特性と対応方法(A) 介護・介助の基礎、移動介助 長沼 俊夫（国立特別支援教育総合研究所）
8	ペアレント・トレーニングの視点 河内　美恵（まめの木クリニック）
9	子どもの特性と対応方法(A) 自立生活面・学校生活面での困難とサポート方法 田中　容子（三鷹市教育委員会）
10	ロールプレイイング、グループ討議 田中　容子（三鷹市教育委員会）

第3日　2010年12月18日（土） 9:10～16:45
（支援員コース・学習支援員コース共通）

11	子どもへの対応の基本 両川　晃子（信州大学附属病院）
12	障害のある子どもの心理 両川　晃子（信州大学附属病院）
13	特別支援教育ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰからのﾚｸﾁｬｰ・ 事例検討 松本　裕子（渋谷区立富谷小学校）
14	現役支援員からのﾚｸﾁｬｰ・討議 （渋谷区　学習指導員）
	修了式(支援員コース)

第4日　2010年12月19日（日） 9:10～16:30
（学習支援員コースのみ）

15	学習面の困難とサポート方法① 笹森　洋樹（国立特別支援教育総合研究所）
16	学習面の困難とサポート方法② 梅田　真理（国立特別支援教育総合研究所）
17	ロールプレイイング、グループ討議 梅田　真理（国立特別支援教育総合研究所）
-	修了式(学習支援員コース)

支援員コース31名、学習支援員コース13名の方がそれぞれのコースを修了されました。関東ブロックの親の会からも18名の参加があり、たいへん充実した講座だったとの感想を多くいただいています。引き続き、2011 年 1 月 22 日、23 日に「ボランティア支援員（学校等で有償・無償のボランティアとして発達障害等の障害のある子どもの支援を行う）」、「家族支援ピアカウンセラー（家族同士という立場で家族支援を行う）」の養成講座を大阪（ドーンセンター）で試行的に実施する予定です。　（内藤）

発達障害児のためのサポートツール・データベース事業

日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

「発達障害児のためのサポートツール・データベース事業」も通算5年目に入り、日本財団の2年目の助成金をいただいて、データベースの充実と普及を進めています。

1. 教材・教具、実証データの公募と追加掲載

7 月 24 日と 11 月 27 日に公募審査会を開催し、今年度の公募による掲載データ掲載作業を進めています。また、11 月にはデータベースに下記事項を追加掲載しました。

(1)実証の追加掲載

●区分 1:国語　区分 2:聞く
学習の領域:音韻認識
困難:ことばの音韻を正しく認識できない
サポートツール名称:おとのある・ないクイズ

●区分 1:国語　区分 2:書く
学習の領域:音を文字に変換する
困難:特殊音節を間違いやすい
サポートツール名称:ねじれるおとどれだ？1・2

(2)プリントのダウンロード

●区分 1:国語　区分 2:書く
学習の領域:音を文字に変換する
困難:特殊音節を間違いやすい
サポートツール名称:特殊音節練習プリント

(3)ソフトのダウンロード

●区分 1:国語　区分 2:読む
学習の領域:文章の音読
困難:文字や行をとばしたり、繰り返して読んだりする
サポートツール名称:追従性眼球運動トレーニングソフト

2. サポートツールおよび新規開発ツールの展示

教材・教具データベースの普及のために、発達障害に係る下記大会会場でサポートツールの展示をおこないました。

●日本　LD学会第 19 回大会会場での展示
日時:2010 年 10 月 9 日(土)・10 日(日)・11 日(月・祝)
会場:愛知県立大学　南棟・B 棟1階　B110

会場を「ことばの教室」のようにレイアウトして、サポートツールを展示しました。通級指導教室で使いやすいように新たに設計して作った棚やパーティションなどを並べてみました。

●JDDネット第 6 回年次大会会場での展示
日時:2010 年 12 月 5 日(日)
会場:神戸国際会議場　地下1階　リハーサル室

10 月の日本 LD学会大会の会場では展示できなかった感覚統合のツールも展示しました。

気持ちを落ち着かせるために中にこもることができる「私の部屋」も新しく作りました。

3. サポートツール全国キャラバン 2010 「教材教具研修会」

2010 年 11 月 21 日(日)、大垣のソフトピアジャパンセンターの大会議室にて、岐阜県LD親の会「れんげの会」との共催で、教育現場や家庭生活における教材・教具の使い方の工夫とサポートの仕方を検討する研修会「発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた指導・支援の具体的方法」を開催しました。96名というたくさんの方が参加してくださいました。

山田充先生と嶋谷和之先生の講演で、子どもの特性や困難を理解するための手立てを探る方法についてのお話を伺ったあとで小学校1年生の事例検討ワークショップをおこなったので、子どもの特性の把握方法と教材教具の具体的な工夫方法についての理解を深めることができました。

＊＊＊＊＊＊　今後の開催予定　＊＊＊＊＊＊

●徳島会場　2011 年 2 月 6 日(日) 10:00～16:30
会場:あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)
5F 小ホール

●札幌会場　2011 年 6 月 5 日(日)
会場:札幌市教育文化会館

●広島会場　2011 年 9 月 4 日(日)　会場未定

●横浜会場　2012 年 2 月予定

詳細は、NPO法人全国LD親の会のHPに掲載します。

（井上）

一般社団法人日本LD学会第 19 回大会報告

10 月 9～11 日、愛知県立大学にて、日本LD学会第 19 回大会が開催されました。「通常学級における 特別ニーズをもつ子どもの支援 －子どもの学びを保障する連携」をメインテーマに 3 日間に渡り、75 の講演会・シンポジウムが催されました。全国より 2,500 名の参加があり、過去最大規模の大会となりました。

大会実行委員であった親の会の皆様にとって気が張った 3 日間だったと思います。準備も含め大変お疲れ様でした。また親の会控え室の準備と丁重な接待に心から感謝しています。ありがとうございました。

親の会の企画パネルディスカッション

日　時 ： 10 月 11 日（大会 3 日目）10:00～12:00
テーマ ： 特別支援教育支援員、ボランティア支援員を活用していくためには?
～これからの支援員の養成や活用の在り方を考える～
パネリスト ： 大城 政之　（特別支援教育総合研究所）
松本 裕子　（渋谷区立富谷小学校）
山岡 修　（NPO 法人 全国LD親の会）
コメンテーター ： 樋口 一宗　（文部科学省）
司 会 ： 内藤 孝子　（NPO 法人 全国LD親の会）

企画趣旨は「特別支援教育支援員は、2010 年度には 37,800 人分の予算措置が講じられており、通常の学級における特別支援教育を図る上で、活用が期待されている。全国LD親の会では、支援員の資質向上に資するため、文部省から委託を受け、養成事業に取り組んでいる。パネルディスカッションでは、特別支援教育支援員の活用に関する現状とこれからの方向性、学校・教員に求められること、特別支援教育支援員、ボランティア支援員の活用や養成の方向性等について、討議・提言を行う。」でした。まず、支援員の活用状況、自治体や学校長アンケートを踏まえ、現状と課題を明らかにし、全国LD親の会が文部

科学省から委託を受けて取り組んでいる、特別支援教育支援員事業について紹介。そのあと、ディスカッションが行われました。大城先生からは、「特別支援教育支援員を活用していくためには？」というテーマで諸外国での実態と国内での取り組みをご紹介いただきました。

討論の中で指導員、支援員、介助員は増えてきているが「地域格差がある事が問題である」「コンクリートより人材が必要」というコメントが印象的でした。それに対し樋口調査官から今の国の考え方の報告がありました。

山岡氏からは「支援員制度の取り組みについて」の話がありました。質の良いサポートを親は望んでいる、その為に全国LD親の会では渋谷区と連携をし、全国どこでも出来る「支援員養成のプログラム」を作成しているといった山岡氏の保護者の立場からの強い想いを感じました。

松本先生からは「渋谷区での特別支援教育の取り組み」についてお話を頂きました。早期発見、早期対応に向け校内委員会を行い、全教職員で共通理解を持ち、担任が特性を理解する努力が行われている実態を羨ましく思いました。学習指導員を上手に活用する為には、学校や担任の力量と工夫が必要であり、コーディネーターの役割も大きい事がわかりました。渋谷区では専門委員会への申し込みが殺到しているとの事で悩んでいる親子が多いことも印象的でした。

全国LD親の会の事業について、樋口調査官からは「学校サイドとは一味違ったところに目をつけている。かなり期待している」という、うれしいコメントを頂きました。大城先生からは「各地域で実施していくために、講師の確保、費用の確保など問題はある。各市町村が我が町の事として真剣に取り組む姿勢をもってほしい」といった提言を頂きました。松本先生からは「きちんとした養成をうけた優秀な支援員がいれば、担任はきっと楽になるはず」という現場の声を頂きました。

内藤理事長から「人と人が繋がる、協力する、そういった姿勢を子どもに見せる事が、その子のライフステージに影響する」という言葉があり、大きく納得できました。

参加人数は 50 名。有意義な時間を過ごす事が出来ました。　（丹藤）

親の会紹介ポスター展示

会場の教室を半分に区切り、全国各地の親の会の活動を紹介するポスターと教材教具の展示をしました。

ポスター展示は 11 会の参加がありました。各会のリーフレットや資料を置き、全国LD親の会発行の冊子販売も行いました。多くの方が来場され、親の会の活動について、広く知っていただくことができました。

●ポスター展示参加

けやき・たけのこ・クローバー・翼・にじの会・ゆうの会・おたふく会・明日葉・にんじん村・れんげの会・かたつむり

親の会懇親会

10 月 10 日　ホテルサンプラザシーズンズ（名古屋市）にて、懇親会を開催しました。（29 名参加）かたつむりからは青年本人が２名参加してくれました。全国各地の仲間と情報交換をしたり、交流を深めることができました。

また、LD学会では、毎年「親の会の控え室」を設けています。今年はコーヒーサービスも行い、保護者だけでなく、専門家の先生方も気軽に立ち寄って下さいました。準備・運営に携わっていただいたスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

全国LD親の会中部ブロック企画 ラウンドテーブル

日　時 ： 10 月 11 日（大会 3 日目）13:00～15:00
テーマ： 保護者と先生の本音トーク
～より良い関係を築くために～
話題提供者：竹内　康訓（愛知県半田市立青山中学校）
石原　由美（岐阜市教育委員会）
児玉裕美子（あいちLD親の会かたつむり）
出口真奈美（岐阜県LD親の会れんげの会）
稲田久美子（三重県学習障害児・者親の会ハナショウブの会）
指定討論者：緒方　明子（明治学院大学）
司 会 者　：多久島睦美（NPO 法人　全国LD親の会）

学会初の試みで、中部ブロックの親の会企画ラウンドテーブルを開催しました。話題提供者に愛知「かたつむり」・岐阜「れんげの会」・三重「ハナショウブの会」の親の会会員 3 名、愛知県の中学校・岐阜市教育委員会の先生、指定討論者に緒方明子先生（明治学院大学）をお迎えし、保護者・教員の立場から語り合いました。

3 名の保護者からは「就学に際し、市内のすべての小学校を回ったが、受け入れてもらえなかった。怠け者扱いをされ、不登校になった。」「中学では、先生との情報共有ができなかった。進路に関しては、制度の狭間で養護学校進学を断念。学校との関係を調整してくれるコーディネーターもいなかった。」「非行や二次障害に苦しみ、心療センターに入院。学校は『来てもらっては困る』と受け入れてくれなかった。高校中退。現在も転職を繰り返している。」と、まさに本音の生々しい体験が語られ、胸に迫るものがありました。

先生からは、障害者手帳のない子の進路・二次障害への対応・小学校と中学校の温度差等の課題、保護者との連携についてお話しいただきました。

家庭と学校との連携は『永遠の課題』ではありますが、こうして同じテーブルで本音で話し合い、お互いを理解しあうことが大切だと感じました。　　（多久島）

中教審・特別支援教育の在り方に関する特別委員会「論点整理」 2010 年 12 月 25 日公表

1. 中教審・特別支援教育の在り方に関する特別委員会の目的

「障害者の権利に関する条約」が、2006 年 12 月に第 61 回国連総会において採択され、2008 年 5 月に発効した。我が国は 2007 年9月に同条約を署名し、批准に向けた検討を進めているところである。一方、2009 年 12 月に、内閣総理大臣を本部長とし、全閣僚で構成される「障がい者制度改革推進本部」が設置され、当面 5 年間を障害者制度改革の集中期間と位置付けられ、2010 年 1 月には同本部の下に、障害者施策の推進に関する事項について意見を求めるために「障がい者制度改革推進会議」が設置され、2010 年 6 月 7 日、同会議による第一次意見が取りまとめられた。

これを受け、各個別分野については、事項ごとに関係府省において検討することが、2010 年 6 月 29 日に閣議決定され、教育分野については、インクルーシブ教育システム構築の理念を踏まえた教育制度の在り方等の検討を行うこととなった。

この検討を行うために、2010 年 7 月に、中央教育審議会・特別支援教育の在り方に関する特別委員会が設置され、山岡が委員として参加している。12 月 25 日に「論点整理」としてパブコメに付されたので、概要についてお知らせしたい。なお、この特別委員会は 2010 年度内に基本的な方向性の検討を行うことになっており、この「論点整理」を基に 3 月までに最終的な答申まとめる予定になっている。

2. 障がい者制度改革推進会議の第一次意見

障がい者制度改革推進会議は、2010年6月に第一次意見を取りまとめたが、教育分野の概要は下記の通りである。(下記は、一部抜粋)

① 障害の有無にかかわらず、本人・保護者が望む場合を除き、すべての子どもは地域の小・中学校に就学し、かつ通常の学級に在籍することを原則とする。

② 就学先における必要な合理的配慮及び支援の内容を決定するに当たっては、本人・保護者、学校、学校設置者の三者の合意を義務付ける。

③ 障害者が小・中学校等に就学した場合に、当該学校が必要な合理的配慮として支援を講ずる。当該学校の設置者は、追加的な教職員配置や施設・設備の整備等の条件整備を行う

中教審の検討は、障がい者制度改革推進会議と並行して行われており、両者の位置づけがはっきりしない部分がある。

3. 中教審・特別委員会の論点整理の概要

まず、特別委員会として、「障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念とそれに向かっていく方向性に賛成する。」という方向性を示した上で、下記のように取りまとめた。

(1) 通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要。

(2) インクルーシブ教育システム構築に向けた今後の進め方については、短期と中長期に整理し段階的に実施していくことが必要

(3) 障害のある子どもの就学先の決定に関しては、本人や保護者が希望すれば、できるだけ普通学校に進めるよう改めるという方向性を示した。最終的には市町村教育委員会が決めるが、本人と保護者の意見をできるだけ尊重することを求め、保護者と教委の意見が一致しない場合の調整の仕組みも検討が必要とした。

(4) 合理的配慮については、ソフト・ハードの両面が必要であり、今後、障害種別の内容も含めて一層の検討が必要。

(5) 教職員の確保及び専門性向上のための方策に関しては、インクルーシブ教育システムの構築のため、教職員の確保や教員の専門性の向上を図るための具体的方策として、大学での教員養成の在り方、管理職を含めた現職教職員の研修体系、採用・配置などについて、今後検討していくことが必要。

4. 中教審・論点整理の評価と要検討事項

今回の論点整理は、障害者の権利条約の内容等を受けて、積極的な姿勢は示しているものの、具体的な中身を見ると、短期的には現状から大きく変化するものとはなっていない面がある。

委員の一人として、①連続性のある多様な学びの場を実現するためにも特別支援教室構想の実現が必要であること、②特別支援学校教員免許ではなく、通常の学校での特別支援教育も視野に入れて、「特別支援教育教員免許」とすべきこと、③就学について、在籍は全て地元の学校とし、必要に応じて特別支援学校や特別支援学級を利用することを長期的に検討していくこと等を提言している。また、今回の検討は障害者の権利条約への批准を目指すものであり、他の国の状況を参考にすべきであり、批准済みの国の検討状況等を調べて、委員会に参考資料として提供するように要請している。

今後年度末までにまとめられる最終案に向けて、これらが何らかの形で織り込まれるように取り組んでいきたい。

(理事　山岡)

日本発達障害ネットワーク （JDDネット）から

●JDDネット　　第 6 回年次大会　報告

2010 年 12 月 5 日(日)、神戸市の神戸国際会議場において、日本発達障害ネットワーク第 6 回年次大会が開催されました。「5 年目を迎えた発達障害者支援から見えてくる将来の展望」をメインテーマに、講演、対談、鼎談、シンポジウムなどで、この 5 年を振り返り、将来の方向性に示唆を与える議論を行うことができ、たいへん有意義な大会となりました。今年は、1 日 (9:30-16:40) のみの開催でしたが、関西では初の年次大会ということもあり、約 1400 名の参加者があり、会場のメインホール、国際会議室とも熱気にあふれていました。

日本発達障害ネットワークは、現在、8 つの当事者団体、9 つの学会・職能団体、48 のエリア会員団体で構成されています。今大会の運営においても、竹田契一大会長（JDDネット理事・一般財団法人特別支援教育士資格認定協会理事長）のもと、各団体が力をあわせて大会を盛り上げ、より絆を強めることができたことも大きな収穫でした。

【プログラム】

◇メインホール

ｵｰﾌﾟﾆﾝｸﾞｾﾚﾓﾆｰ	日本発達障害ネットワーク役員・ご来賓
講　　演	「障害受容と家族支援」 中田洋二郎
対　　談	「当事者からの発信」 ニキリンコ・竹田契一
ア ニ メ 上 映	「ADHD の正しい理解のために」 解説：田中康雄
対　　談	「脳科学の最前線」 中村和彦・辻井正次
記 念 講 演	「障がい者総合福祉法とは何か～知的・発達障害の人がハッピーになるために～」 野沢和弘
鼎　　談	「発達障害における当事者性と支援」 宮本信也・田中康雄・高山恵子

◇国際会議室

シ ン ポ ジ ウ ム	「エビデンスに基づいた指導・支援～特別支援教育のあるべき姿～」 柘植雅義、山本淳一、山田充、河場哲史、中尾繁樹
対　　談	「就労に向けて～福祉と労働の連携～」 関宏之、矢野孝
ﾗｳﾝﾄﾞﾃｰﾌﾞﾙ 1	「今、行政は？」 千原由幸、内山博之　大塚晃、山岡修
ﾗｳﾝﾄﾞﾃｰﾌﾞﾙ 2	「今、政治は？」 発達障害の支援を考える議員連盟：中根康弘議員、高木美智代議員、馳浩議員 JDDネット：市川宏伸、氏田照子、辻井正次

●「障がい者制度改革推進本部等における検討を踏まえて、障害保健福祉施策を見直すまでの間において障害者等の地域生活を支援するための関係法律の整備に関する法律」公布！

2010 年 12 月 3 日「障がい者制度改革推進本部等における検討を踏まえて、障害保健福祉施策を見直すまでの間において障害者等の地域生活を支援するための関係法律の整備に関する法律」が、国会の審議を経て成立し、12 月 10 日に公布されました

この法律により利用者負担の見直し、障害者の範囲の見直し、相談支援の充実、障害児支援の強化、地域における自立した生活のための支援の充実がはかられることになりました。特に、発達障害が障害者自立支援法の対象となることが明確化されたことにより、発達障害者支援法が成立(2004.12.3)してから、やっと障害者福祉サービスのなかに明記され、全国どの市町村でも支援が受けられるようになりました。

・利用者負担の見直し：
　（平成 24 年 4 月 1 日までの定める日から施行）
・障害者の範囲の見直し：（公布日施行）
・相談支援の充実：（平成 24 年 4 月 1 日　施行）
・障害児支援の強化：（平成 24 年 4 月 1 日施行）
・地域における自立した生活のための支援の充実：
　（平成 24 年 4 月 1 日までの定める日から施行）

●JDDネット法人化

日本発達障害ネットワークは、2011 年 1 月、「一般社団法人日本発達障害ネットワーク」になりました。

（内藤）

親の会設立準備を進めています！　和歌山県　大分県　岡山県

●和歌山県親の会設立準備会

2010 年 9 月 4 日（土）13:00～16:00、中央コミュニティーセンターにおいて、相談会と準備会を行いました。準備会では、会の名称を、和歌山県LD等発達障害親の会「ほっぷ」とすることに決まりました。「ホップ　ステップ　ジャンプ」の「はじめの一歩」の「ほっぷ」です。そして、2011 年 5 月の設立総会開催を目指して準備を進めていくことになりました。

また、2010 年 11 月 6 日（土）13:30～16:00 には、特別支援教育士スーパーバイザーの山田充先生をお迎えして、東部コミュニティーセンター2 階活動室（大）にて講演会を開催しました。「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用～使い方で変わる教材の有効性～」というテーマで、40 名の方が参加してくださいました。発達障害のある子どもをサポートする際に必要な視点など、具体的な内容について学ぶことができ、充実した講演会でした。これからの活動予定は以下の通りです。

〈座談会〉

2011 年 2 月 6 日（日）13:30～16:00

場所　：中央コミュニティーセンター　活動室 3

テーマ：「教師の気持ち、親の気持ち」

一般財団法人特別支援教育士資格認定協会（S.E.N.S.の会）和歌山支部会の先生にアドバイザーをお願いしています。

〈設立総会＆記念講演会〉

●設立総会　2011 年 5 月 29 日（日）11:00～12:00(予定)

場所　：中央コミュニティーセンター　活動室1

●記念講演　2011 年 5 月 29 日（日）13:30～16:00（予定）

場所　：中央コミュニティーセンター　1階　多目的室小

講師　：米田和子

（特別支援教育士 SV・臨床発達心理士）

詳細については、次号にてご案内いたします。

（井上）

●大分県における親の会設立準備

大分県においても親の会設立にむけて準備を進めています。昨年度は大分県下 5 か所で開催された大分県教育委員会主催の講演会で、親の会設立準備会への案内ちらしを配布しました。今年度も大分県教育委員会や月森久江先生のご協力を得、発達障害のある小中学校のお子さんの学校や家庭での取り組みに関する講演会と講演会終了後、設立のための説明会を開催します。

これを機に、大分県でも尚一層、発達障害のある子どもへの支援、保護者同士の連携、発達障害に対する社会的理解が進むことを期待しています。

「全国 LD 親の会　特別支援教育講演会 IN 大分」

日時：2011 年 2 月 27 日（日）13：00－15：30（開場 12：30）

会場：コンパルホール（大分市）3 階　大会議室

会費：無料

講演：大分県教育委員会　特別支援教育課

講演：月森　久江

（東京都杉並区済美教育センター指導教授・元杉並区立中瀬中学校情緒障害「通級指導学級」担当・特別支援教育スーパーバイザー）

「大分県LD等発達障害親の会設立準備会」

日時：2011 年 2 月 27 日（日）15:30-16:30

会場：コンパルホール（大分市）3 階　大会議室

（大曲）

●岡山県での親の会設立準備説明会開催

今年 3 月 19 日(土)に開催される「NHKハートフォーラム岡山」に合わせ、岡山県のLD等の発達障害親の会の設立準備説明会を下記の通り開きます。

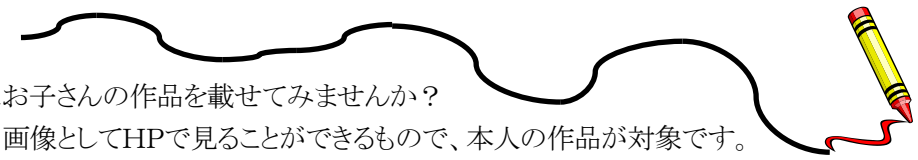
日時：2011 年 3 月 19 日（土）16:15～17:30

会場：岡山県総合福祉会館　4 階　第 2 会議室

岡山県の親の会設立について具体的な方向性が見いだせればと思っています。

（高橋）

集まれ！クリエイター



NPO法人全国LD親の会のHPにお子さんの作品を載せてみませんか？

絵画、書、CG、工作物、写真など、画像としてHPで見ることができるもので、本人の作品が対象です。

上手・下手は問いませんが、他団体へ発表したものや公序良俗に反するもの、肖像権の問題があるもの、宣伝性があるものは避けてください。（役員の判断で掲載しない場合が有ります。） また、同じ人の作品を一度に多く載せることはできませんので、ご了承下さい。

応募方法：

HPから応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入した上、作品の写真（できればデジカメ等のファイル）を添付して所属する各親の会へ送ってください。 各親の会は、会員の確認と記入漏れのチェックをしてから、全国LD親の会事務局へ送ってください。（会員が応募用紙をダウンロードできない場合、各親の会が応募用紙を手配してください。）

HPへの掲載は年に3回の予定です。すぐには掲載されないので首を長くしてお待ちください。

北海道ブロック紹介

5 団体で仲良く連携しています。最近のホットな活動を報告します。

お肌潤う・心潤うエステ体験

旭川LD親の会「ぷりずむ」

すっかり一面銀世界の旭川。いよいよ冬本番です。そんな寒くて空気が乾燥する前に、お母さんや女子の為の企画「お肌潤う・心潤うエステ体験」を開催しました。2 学期は何かと子どもの事等でお疲れのお母さん達。特にお母さん方が鬱病という訳ではありませんが、以前テレビで鬱病の女性患者の治療にメイクを取り入れて効果を上げているというのを見た事があり、いつもとちょっと違う自分を発見して楽しんでストレスを解消してもらえればと思い企画しました。

ホームエステのスキンケアプログラムを体験させてもらえる「サキナ」さんという会社の方を会員が知っていて相談したところ「皆さんに喜んでもらえれば」とエステの資格を持っている方がボランティアで7名も来て下さり 11 月 5 日に実施することが出来ました。

男子が体育館で野球の練習をしている間にエステをしてもらいました。内容は顔のお手入れやハンドケア、スチームをしてお肌にたっぷりの水分をチャージ。その後はメイクをしてもらいお肌のお手入れのアドバイスをして頂いたり、ワイワイとやっているうちにお母さん達はピカピカに美しくなりました。中高生の女子もお顔のお手入れをしてもらいちょっと大人気分で大満足。その後も「サキナ」さんの方々との交流も続いていて今回参加出来ずに残念がっていたお母さん達にも是非、楽しくストレスを解消してもらいたいので第2弾が企画出来ればと思っています。

お母さんがエステをしてもらっている間、ジーッとその様子を見て「綺麗になったね！」と喜ぶ子どもさんもいました。お母さんにも、子どもにも笑顔が溢れたこの企画は大成功でした。

パソコン教室

室蘭LDを考える会
「ダビンチの会」

地元の相談機関と共同で
パソコン教室を始めました
冬季間は休校
現在　生徒 5～7 名
←生徒である会長作

新たな飛躍をめざして

北海道学習障害児・者親の会「クローバー」

クローバーは活動を始めて 24 年目を迎えています。設立当時小さかった子ども達が、30 歳を越す年齢になっています。現在 19 歳以上の大きくなった子ども達は 130 余名会員の半数近くに迫っています。また、青年期になってから診断を受けて入会してくるケースや在宅者の問題など、青年の就労自立への課題が鮮明になってきました。

このような状況から、2008 年から本格的に就労支援事業に取り組み始め、今年で 3 年を経過しました。高校生年齢以上を対象とした SST セミナーの開催・就労見学会・インターンシップ・啓発として公開講演会等を実施しています。インターンシップは受け入れ先の開拓から始めましたが、快く引き受けて下さる企業や事業所等に恵まれ、多岐にわたって実習させていただいています。

また、昨年度から札幌近郊の由仁町の農家で、農業体験を始めました。春の種まきから始めて畝作り・草取り等々をして生長を見守り、実りを迎えて収穫するという過程を実感して食すということは、とても良い経験になっています。

↓〔大地の恵に感謝して〕 秋の収穫祭にて

今年度は、更に支援事業を押し進めるために「2020 年を発達障害者の飛躍元年とするプロジェクト」を立ち上げ、4 月から「ハッピーステージ・プロジェクトチーム」をスタートさせました。子ども達が生涯に渡って活き活きと働き生活するために、10 年計画で「就労支援・自立支援・家族支援」を柱とした活動を、顧問の先生方や各関係機関の皆様方のご協力のもと始めたところです。家族支援については、昨今の親を取り巻く現状を踏まえて、「ストレスマネジメント講座」を実施しています。また、就労自立は学齢期からの対応が重要と捉え、小さい子ども達も対象に含めています。

これまでの事業は、各方面から助成金をいただき実施してきました。私達の願い・合言葉は「親が安心して死ねること」です。そのためには、親が出来ることを進め、関係者の方々と手を携えることだと考えています。

これらのことを踏まえて、クローバーでは 10 月に NPO 法人の申請を提出しました。10 年後を見据えて、会員一同一丸となって活動してまいります。

●特定非営利活動法人全国ＬＤ親の会第 4 回総会のお知らせ

日時 ： 2011 年 6 月 18 日(土)　12:00～13:30
場所 ： 大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)特別会議室 （大阪市中央区）

●第 10 回全国ＬＤ親の会公開フォーラムのお知らせ

日時 ： 2011 年 6 月 19 日(日)　 10:20～17:50
場所 ： 大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)ホール （大阪市中央区）
※ 内容・申し込み方法などの詳細につきましては、後日HPに掲載いたします。

●一般社団法人日本LD学会第 20 回大会のお知らせ

日時 :2011 年 9 月 17 日(土) ～19 日(月・祝)　テーマ:あらためて問う発達障害児の学習支援
場所 ： 跡見学園女子大学　−知能・学力・生きる力−

●ＮＰＯ法人全国ＬＤ親の会　活動報告

07 月 22 日　日本LD学会(筑波大学宮本先生)のアンケート協力(50 名)
07 月 26 日　総合福祉部会へ提出した「JDDネット意見書」を各会に送付
08 月 02 日　20 周年記念誌の資料編に掲載する各都道府県の委員会の参画状況の件について各会に問いかけ
08 月 11 日　中教審・特別支援教育の在り方に関する特別委員会　9/6,10/5,10/25,11/5,11/19,12/3 （山岡）
08 月 19 日　「かけはし」67 号発行・会員名簿配布
08 月 21 日　全国LD親の会公開フォーラム in 札幌(内藤・東條・熊谷)
08 月 31 日　NHK厚生文化事業団 50 周年「感謝のつどい」出席(丹藤)
09 月 04 日　和歌山県LD等発達障害親の会準備会(内藤、井上)
09 月 05 日　特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業第1回拡大委員会(内藤・山岡・丹藤)
09 月 05 日　特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業第 2 回実行委員会(内藤・山岡)
10 月 06 日　障害者の自立支援と就業支援の効果的連携のための実証的研究委員会(内藤) 12/10
10 月 09 日-11 日　日本LD学会第 19 回大会 (内藤、丹藤、山岡、井上、多久島)
10 月 13 日　特別支援教育支援員養成講座(渋谷)受講生募集
10 月 20 日「発達障害者支援におけるNPO等の役割に関する報告書－全国LD親の会 20 年のあゆみ－」発行
　　加盟団体、関係機関に贈呈
10 月 31 日　NPO法人全国LD親の会第 6 回役員会・第 7 回理事会
11 月 06 日　和歌山県LD等発達障害親の会準備会「ほっぷ」講演会(内藤、井上)
11 月 15 日　ボランティア支援員養成講座(大阪)受講生募集
11 月 21 日　サポートツール全国キャラバン 2010「教材教具研修会」in 岐阜(多久島)
11 月 27 日　サポートツール・データベース事業の運営会議と公募審査会(内藤)
12 月 05 日　JDDネット第 6 回年次大会(神戸) (内藤、山岡、井上)
12 月 07 日　全国特別支援教育振興協議会(丹藤、吉田)
12 月 11,12,18,19 日　特別支援教育支援員養成講座(渋谷)(内藤、山岡、丹藤)

●第 7 回理事会報告

日　時:2010 年 10 月 31 日　16:00-17:00　場　所:NPO法人全国LD親の会事務所
出席者:大曲千代子、丹藤登紀子、東條裕志、内藤孝子、山岡修

[審議事項]

第一号議案　NPO法人全国LD親の会　第 6 回役員会における審議結果の承認
　　第 6 回役員会における審議結果を審議し、全員一致でこれを承認した。